

# 波音

なみおと



清水海岸だより 第2号(H18.4)

## 第2号の内容

- 特集：清水海岸の侵食対策工法の紹介
- 事業実施までの経緯

新能（三保の松原）



三保の松原と豊峰富士

『風早の 三穂の浦廻を 漕ぐ舟の  
舟人騒ぐ 波立つらしも』

「かざはやのみほのうらがを こぐふねの ふなびとさわぐ なみたつらしも」と万葉集の歌に詠まれる三保の松原。昔に比べて砂浜がやせてきていることをお気づきでしょうか。今回は、清水海岸を例に海岸侵食についての原因と静岡県の取り組みについて特集します。

海岸侵食から三保の松原を守る



# 特集

## 清水海岸の侵食対策工法の紹介

静岡県では、侵食が進む海岸線の砂浜などを守っていくために、いくつかの海岸保全対策が実際に行われています。ここでは、清水海岸で実際に進められている工法を紹介いたします。主なものとしては、突堤・ヘッドランド・離岸堤・消波堤・養浜などがあります。



平成 16 年現在  
**【突堤】**  
 沿岸方向に漂う砂の移動を阻止して、その一部を捕らえて堆砂させ、砂浜を安定化させる工法。



平成 16 年現在  
**【ヘッドランド】**  
 いくつかの人工的な岬(ヘッドランド)をつくることにより、安定した砂浜を維持していく工法。



平成 17 年現在  
**【離岸堤】**  
 背後の波を小さくし、侵食を防止するとともに砂を堆積させる工法。  
**【消波堤】**  
 波の力を小さくし、堤防前面の深掘れを防止し、背後施設を防護する工法。



**【養浜】**  
 人工的に砂を補給して砂浜の維持、回復を図る工法。

### 清水海岸高潮対策事業区間 L=7,600m



**清水西海岸 高潮対策事業概要**  
 事業期間 平成元年～平成41年  
 工事概要 離岸堤型ヘッドランド5群 L字突堤1基  
 離岸堤 15基(内2基は災害復旧事業で整備)  
 消波堤4基 養浜工 133万㎡  
 計画の波の高さ H=12.0m(50年確率波)



## 事業実施までの経緯

清水海岸及び隣接する静岡海岸は、安倍川が供給する豊富な土砂により、かつて100m以上の砂浜幅を有していました。

しかし、昭和30年代に河川において過剰な砂利採取が行われた結果、昭和40年頃から安倍川河口部に隣接する静岡海岸で侵食が発生し、その後、年平均270mの速度で東側に侵食域が拡大しました。

砂浜を失った海岸の護岸は、直接波浪を受けることとなり、毎年のように背後の道路が流失するといった被害が発生するようになりました。

その後、侵食域の拡大は、その勢いを落とすことなく進行し、昭和60年代には清水海岸まで到達しました。

このままの速度で侵食が進行した場合には、数年のうちに三保の松原まで侵食が進行することが予想され、地域の貴重な観光資源である「羽衣の松」の流失を危惧する声が高まり始めました。

このため、静岡県では、平成元年から平成41年を事業期間とする清水海岸の海岸保全対策事業を実施しています。



侵食の進行を報じる新聞記事



侵食の進行を報じる新聞記事



高波で削り取られた砂浜（平成6年）



お問合せ、ご意見はこちらまで

静岡県静岡土木事務所 清水支所  
静岡市清水区日の出町 9-25 (〒424-0922)  
TEL 0543-53-2212 FAX 0543-54-1873

◇静岡県静岡土木事務所 清水支所 発行◇